

令和 5 年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

1 学習指導について

学校関係者評価生徒アンケート「先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている。」の項目の肯定的評価が 91.6%であった。この結果から、教育 DX を推進し、ICT (タブレット端末) の活用を学習のスタンダードとして定着してきていることがわかる。また、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」の肯定的評価は 91.6%であった。「対話的な学び」を推進している成果であると考えられる。しかし、ICT の項目は昨年度の 94.5%から 2.9 ポイント下回っており、学び合いの項目も昨年度の 96.5%から 4.9 ポイント下回っている。90%を超える高い数値とはいえ、下がっていることに対して危機感を持って授業改善を進めていく必要がある。

さらに、「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。」の項目の肯定的評価が 79.7%で 80%を下回る結果となり、昨年度の 86.0%から 6.3 ポイント下回っている。その要因として、新しい評価基準への変更に対して教員は慣れてきたが、その分、生徒たちへの説明が不足してしまったと考えられる。

学習指導に関しては、この結果を踏まえたうえで、多様な生徒一人一人の能力、適性に応じた「個別最適な学び」を充実させていく。

2 進路指導（キャリア教育）について

「何をどれほどやったか（アウトプット）」「どのような成果を挙げたか（アウトカム）」を明確することで自己肯定感を高め、自信を持って将来に向かっていける力を育成することを目標に、「キャリア・パスポート」の工夫と活用を進めてきた。しかし、学校関係者評価生徒アンケート「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」の項目の肯定的評価は 63.2%であり、昨年度の 67.7%より 4.5 ポイント下回る結果となった。目標を立てることは、自分自身の学びにも生き方にも密接な関係にあることをしっかりと理解させていく必要がある。また、保護者アンケート「本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている。」の肯定的評価は 79.5%で 80%に近い数値であり、保護者にキャリア・パスポートが理解されていることが伺えるが、昨年度の 82.2%より 2.7 ポイント下回っている。次年度もキャリア・パスポートのさらなる充実に取り組んでいく。

3 独自項目について

- (1) 学校関係者評価生徒アンケート「私は、自分自身の良いところを理解している。」の項目の肯定的評価は 65.3%であり、昨年度の 61.9%より 3.4 ポイント上回った。微増ではあるが、生徒が相談しやすい雰囲気をつくり、一人一人のよさや個性を共感的に理解し、伸長するとともに、努力の継続や思いやりのある行動等を積極的に評価し、生徒の自尊感情を高めた成果だと考える。次年度は肯定的評価 70%を目指す。
- (2) 学校関係者評価地域アンケート「本校の生徒は地域のボランティア活動や地域行事等に積極的に参加している。」の項目の肯定的評価が 75.4%であり、昨年度の 70.2%より 5.2 ポイント上回った。コロナ禍が明け、地域活動がコロナ禍以前に戻りつつあることも要因の一つではあるが、生徒たちの地域を大切にしたい気持ちも育ちつつあることが考えられる。地域とともに歩む学校として肯定的評価 80%を目指す。